

のきのきのき

— 平和な今を魅せる3つの軒の先 —

地下壕から展望広場に上がったとき
丘の上は無防備すぎて
ここに立っていることそのものに
平和であることを実感した

かつてや今の平和な日常
軒先で遊ぶ子供たち
縁側に腰掛けてぼおっと空を眺める
足をぶらぶら
お茶を飲んだり
談笑したり
集まった仲間と記念撮影したり

あたりまえの今の平和を魅せる
3つの軒先を展望広場に設けます

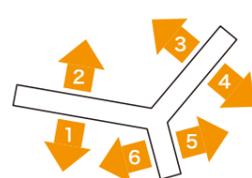


軒先の平和な日常



三叉ベンチが仕掛ける現象

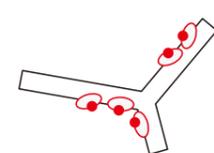
1枚の壁からなる柱とベンチを三叉状に配置して3つの軒先をつくる。ありそうでなかったシンプルな構成で座り方や視線の捉え方など①～⑤を始めとするいくつもの現象を仕掛ける。軒先に人が居るただそれだけの光景を印象的に魅せる3つの軒先「のきのきのき」ができる。



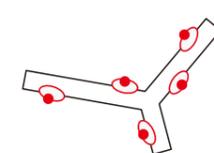
① 3本両面6通りの向き
両面使いのベンチは6通りの座り方向を選択できる



② 風景を魅せる額縁
壁柱とベンチが風景を印象的に縁取る

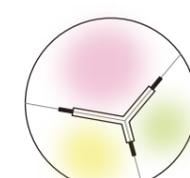


ソシオペタル

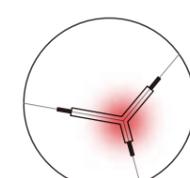


ソシオファーガル

③ 多様な座の配置
コミュニケーションをとるソシオペタル(対面型)、無関係で居られるソシオファーガル(離反型)など個人、集団に合わせた座の配置が可能



④ 空間の分節
展望広場の円型敷地を一体的かつ緩やかに分ける



⑤ 360°ビュー
ベンチの交点付近に立つと全方位を見ることができる

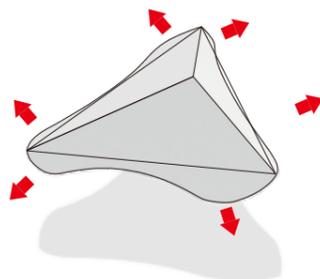
展望広場円形の評価



円形の展望広場は、丘の頂点にあり、琉球王朝時代の火番盛(ヒバンムイ)の名残を与えるように整地されている。北側は、那覇市街、東シナ海を望むことができる。手前に豊見大橋、漫湖公園のクジラ、市街地に目を向けると、県庁舎や高層ビルのスカイラインを楽しめる。南側は、南部市街地、海側には空港へ高度を下げていく飛行機、海の先に慶良間諸島が見える。東側は、慰霊の塔の裏側にあたり、遠景はないが、ガジュマルやクワディーサーの木陰になっている。西側は、宇栄原団地、園内の緑地帯が壁になって遠景は望めない。ぐるっと回るスロープが丘に動きを与えている。

屋根の作り方

軒下に膨らみを与えながら、木陰や雲影など移ろいゆく景色に屋根の影がなじむように曲線で軒先のラインを描く



南側



東側



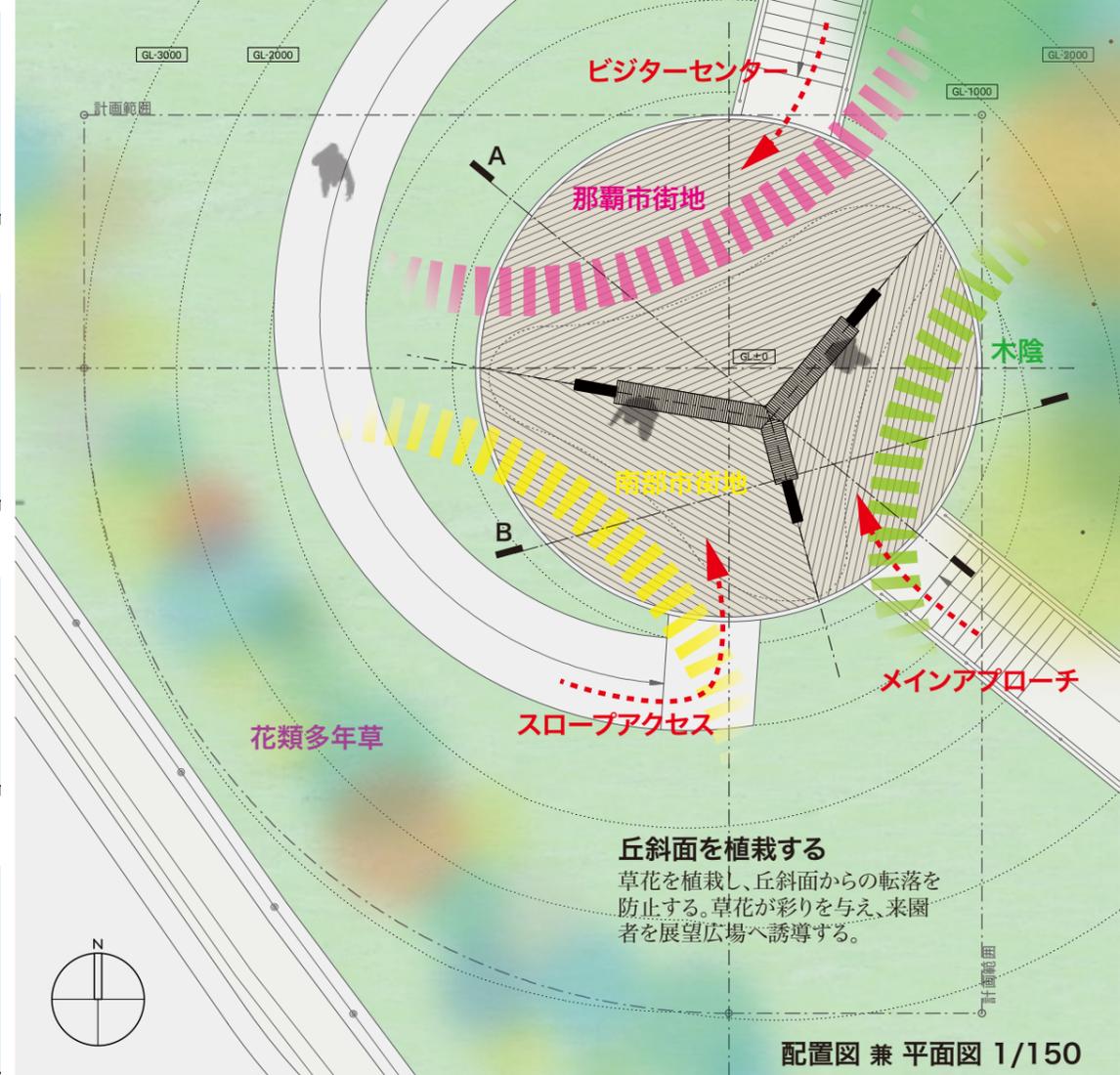
北側



西側

立面図 1/200

不等辺三角形を錐体にし、軒先の鋭角をなくすように膨らみやへこみを与えながら軒のラインを曲線で描いている。展望広場の円型の中心から屋根の頂点をずらして配置し、周辺状況に対応しながら角度を振り分けている。どの面も表情が異なる愛らしい立面をしている。



配置図 兼 平面図 1/150

丘斜面を植栽する
草花を植栽し、丘斜面からの転落を防止する。草花が彩りを与え、来園者を展望広場へ誘導する。



A断面



B断面
断面図 1/150



建物概要

- ・ 建築面積：19.66 m²
- ・ 延床面積：14.58 m²
- (屋根投影面積：43.51 m²)
- ・ 最高高さ：4.600 m
- ・ 最小軒高：2.236 m

仕上表

- ・ 床：再生木材
- ・ 壁：コンクリート打ち放し補修の上、装飾塗料仕上げ
- ・ 天井：木板耐水処理仕上げ
- ・ 屋根：コンクリート打ち放し仕上げ 防水塗装